

②(海外)・国内) 出張報告書 (学生用)

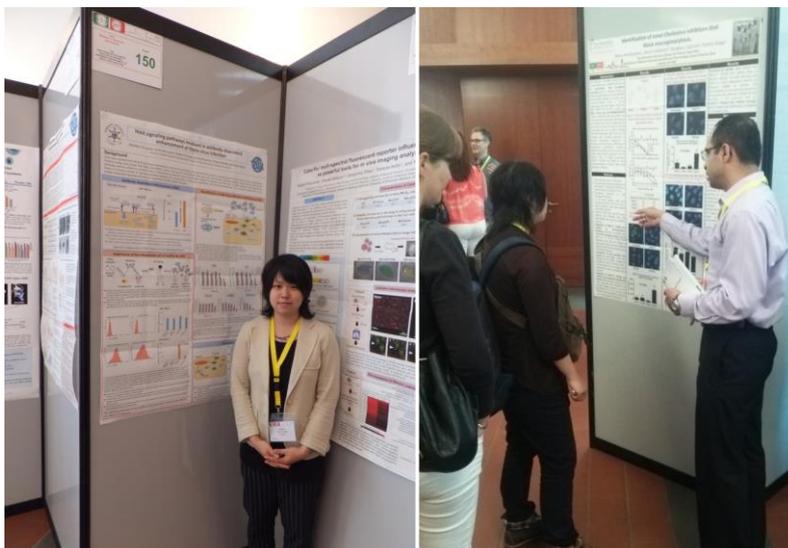
2015 年 7 月 8 日提出

氏名	古山若呼
所属	人獣共通感染症リサーチセンター
学年	D3
出張先	イタリア シエナ
出張期間	6 月 13 日ー6 月 20 日
目的	Negative Strand Virus Meeting 2015 への参加及び研究成果発表

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

本出張では、イタリアのシエナで行われた第 16 回 Negative Strand Virus Meeting (NSV)に参加し、これまでの研究成果を発表、及び活発なディスカッションを通じて研究をさらに発展させることを目的とした。NSV は 3 年に 1 回開催される国際学会であり、世界各地の研究者が集まる貴重な場である。今回学会が開催されたイタリアのシエナは歴史ある町であり、シエナ大学やキジアーナ音楽院、シエナ外国人大学があり学問の町として栄えており、14 世紀にシエナ派の芸術が花開いた美術史上重要な町でもある。

第 16 回 NSV は、8 つのカテゴリー(In out and moving about, Structure and Function, RNA synthesis, Antiviral Response, Host Cell Interactions, Pathogenesis, Vaccines, Antivirals and Therapeutics, Natural and Unnatural Evolution)からなり、5 日間にわたって開催された。筆者は Host signaling pathways involved in antibody-dependent enhancement of Ebola virus infection というタイトルでポスター発表を行った。ポスター発表は 1 時間半あるコーヒブレイクの時間がコアタイムとして定められており、参加者はコーヒー、軽食を片手に気軽に質問、Discussion に花を咲かせることができた。自身の発表も、エボラウイルスや宿主のシグナルに関心のある研究者が質問に来てくれ、意見交換を行うこと



ポスター発表

質問する筆者

ができた。また、筆者もエボラウイルスの新規薬剤候補に関する研究や疫学調査など自身の興味のあるポスター発表を閲覧、質問し有意義な時間を過ごせたと思う。

ポスター発表以外の時間は、口頭発表を聴講した。口頭発表は1箇所のホールですべて行われたため、筆者とは異なった分野の発表も数多く聞くことができた。また、本学会では昨年世界中で問題となったエボラウイルスに関する発表が多く、自身の研究の発展に活用できるような情報が得られた。

セッション終了後には、レセプションがあり、トスカナ地方の郷土料理や生ハム、様々な種類のチーズなどを満喫することが出来た。レセプションでは筆者が興味を持った演題の発表者にワインを片手に話しかけ、お互いの研究内容に関して話し合った。また、他大学の大学院生(日本人含む)との交流も積極的に行い人脈を広げることができた。



レセプション会場にて

今回、NSV という国際学会に初めて参加することによって、国内外の研究者と討論、及び交流を持つ機会が得られた。このような交流を通して自身の研究内容を見直すこと、また最新の研究内容を知ることができる良い機会になったと思う。ポスター発表では、実際に英語で質疑応答を行い、自身の研究をいかにわかりやすく伝えることが大事か考えさせられた。今回の NSV で印象に残っているのは、口頭発表を行い、質疑応答も簡潔に答えていたフランス人の大学院生である。その人は私と変わらない年齢で当然英語が母国語ではない。しかしその発表はわかりやすく素晴らしかった。自分も、英語の能力、及び自身の研究内容をわかりやすく、おもしろく伝えるプレゼン能力を磨き、次回は口頭発表で観客を魅了できるように日々精進したいと思う。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくれたリーディングプログラムに感謝したい。

指導教員確認欄	所属・職・氏名：人獣共通感染症リサーチセンター 国際疫学部門 教授 高田礼人 印
---------	------------------------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp